

平成30年度 決

笑顔が未来に広がる 緑あふれるみんなのまち！

一般会計 歳入総額 86億 589万円
 特別会計 65億7,451万円

主な事業

- ①小中学校5校にエアコン設置の実施設計
- ②町道3号線の拡張事業 歩道整備の用地買収等
- ③町制50周年記念事業のプレイベント
「まつぶしフォトロゲイニング」

歳入

一般会計

主な質疑

問	答
町の財政運営の総合的な判断の基本は、計画性、弾力性、積極性の3つが総合されて評価される。実質収支比率は、3%から5%が望ましいとされているが、7.2%と高い理由は。	実質収支比率は、歳入歳出の差し引きから翌年度へ繰越すべき財源を引いた実質収支額を標準財政規模で割り返した値である。平成29年度は8.5%という数字で、昨年度と比較すると1.3%減となった。普通交付税の増額により、標準財政規模が増額となっている。平成30年度の繰越金が単年度収支で、6,900万円ほど減額になったことが要因。近隣の市も、ほぼ9%、8%の数字で推移している。
町民1人当たりの財政負担額は、平成29年度に比べて9.3%の減となっているが、どのように評価するか。	町民1人当たりの財政負担額減要因は、地方債の現在残高、あるいは債務負担行為の予定額から財政調整基金などを除いた数字を住民基本台帳の人口で割った値である。地方債の現在残高は約1億5,000万円減少しており、債務負担の予定額も4億1,000万円減少している。基金残高も3億6,000万円増えているので、将来負担が軽減され、健全化が図られたと認識している。
町民税の予算現額は15億7,840万円で、収入済額16億6,687万円。予算現額との差は8,847万円。町民税の当初予算額に比べて収入済額は1億1,847万円多くなったが、誤差が大き過ぎるのではないか。	町民税の収入済額のうち、町民税の9割を占める個人町民税について、予算を積算する上での課税資料として給与支払い報告書や確定申告書、また住民税の申告書がある。これらの課税資料の提出期限が、給与支払い報告書は1月末、申告書は3月15日となっているので活用できない。予算を作成する際には、過去の推移、景気の動向を基に積算、前年度の当初予算と比較して0.7%増の積算とした。法人町民税は、当初予算の積算時、累計で20%以上下回っていたことから、前年度比23%減の積算をした。
地方交付税、当初予算は14億8,000万円で決算額は17億5,404万円と大きくなった要因は。	主に、基準財政収入額について、個人住民税の所得割に関し平成29年度の本算定、決定額をベースに地方財政計画の数字を用いて見込みを出したが、さらに下回り約3,600万円ほど算定額が見込み額から減った。基準財政収入額が減額すると、地方交付税は増える構造となっている。
ふるさと納税は、寄附件数、件別金額とも減少しているが、その要因は。	平成30年度は48件、寄付総額110万4,500円、金額別では1口2万円が多い傾向にある。減少要因は、返礼品は町と推奨特産品をPRし、町を情報発信する考えでスタートした。高級な牛肉やカニなど地場産品で扱える市町村は、寄附額が多いが、過度な競争が始まってギフト化されてしまった。国は、寄附金に対する返礼額の割合を3割に抑え、地場産品のみと規制した。

算 認 定

9月定例会

9月2日から
9月25日まで

歳出総額 81億2,990万円
62億8,367万円

- ④「第二次健康まつぶし21」の策定
- ⑤人口減少対策の一つとしてシティプロモーション戦略に基づいた町のPR動画の撮影
- ⑥「松伏・田島産業団地」の整備(継続)



町制50周年記念事業プレイベント
「まつぶしフォトロゲイニング」

歳出 一般会計 主な質疑

問	答
町制50周年プレイベント「まつぶしフォトロゲイニング」採用の背景・経緯と若い人の発想を取り入れた企画について説明願う。また、50周年記念イベントにどのように活かしていくのか。	50周年事業にあたり実施方針を定め、町内及び町外に広くPRし、実際に松伏に来て頂いて、触れて頂き、ひいては松伏に住んで頂くというコンセプトの下で企画を考えてきている。プロジェクトチームを組み、若手職員の提案でフォトロゲイニングの企画に至った。当日は雪の悪天候の中であったが、58チーム、155人の参加があった。商工会、町内事業者の協力で町内特産品の振る舞いができた。この経験を次の事業につなげていきたいと考えている。
早期不妊検査助成・治療費助成金で早期検査として妻の年齢43才未満で2万円の助成、治療に関しては妻の年齢35才未満では上限10万円だが一定の条件がある。実績について説明願う。	平成30年度の新規事業として、松伏町不妊治療費助成金交付要綱を定め、不妊検査、不育症の検査、不妊治療への助成する3事業を新たに始めた。利用件数は、不妊検査の助成金について2件、不育症の助成金の利用はなく、不妊治療費の助成金については3件の利用があった。
平成30年度に児童館を利用した松伏町民の数と、平成29年度の実績と比べどのようになっているか。児童館の利用者が7,486人も減っているが、家庭生活および職業生活の両立支援をどのように評価するか。	平成29年度、6万人の利用に対し、減少が見られる。近年夏場の暑さが大変激しく、児童・生徒の健康に配慮して、屋外で行うイベント・事業を中止することがあり、事業の延べ回数が若干減っている。また利用者数も過去最多のインフルエンザ患者数となる中で減少した状況になったと考えている。子供の居場所、子育てに関する情報提供、相談の充実の場所として、松伏町児童館、ちびっ子ランドの管理運営に努めていく。
高齢者福祉タクシー事業には高齢者の実情に合っていない制限があり、利用が少ない状況である。町として平成30年度の事業をどのように分析し、今後活かしていくのか伺う。	平成30年度の実績は交付対象者206人に対し、交付枚数2,472枚、利用枚数1,328枚となっている。1ヶ月当りの利用枚数は110枚、平成29年度の70枚より40枚程の増加となっている。行き先は町内、町外を問わず、病院の利用が一番、次に買い物という利用状況となっており、利用開始年度から特段の変化はない。今後、交通弱者対策の中で、健康で長生きのできる松伏町をつかっていきたい。
消火栓設置費415万3,500円のうち、新設となった理由と経費、今後の予定は。	大字築比地地区内の消火栓の新規設置は、毎年度1か所新設することとしており、消防署と協議し、効果的に配置するよう努めている。大字松伏地区内については、県道越谷野田線の整備に合わせ、水道管布設の必要から、道路築造に合せて2件新設した。他に田中地区内で水道管の老朽化により2か所更新し、合計5ヶ所の消火栓に係る負担金が415万3,500円となった。今後も効果的な消火栓の設置に取り組んでいく。